

横河電機株式会社

2011年3月期 決算説明会資料

2011年5月16日

取締役専務執行役員 八木 和則

東日本大震災で被災された方々に
謹んでお見舞い申し上げますとともに、
被災地の一刻も早い復旧を
心よりお祈り申しあげます。

1. 新興国、資源国の継続的な成長等に支えられ、前期と比較して売上高が増加。売上高の増加に加え、固定費構造の改革により営業利益も増加。

制御事業：海外では石油・天然ガスの探査、開発、生産工程であるアップストリーム分野や、新興国で需要が拡大している電力市場に注力。また、日本市場ではサービスビジネスの拡大や新市場への進出に向けた活動を強化し、売上高は前期に比べ増加。営業利益は、為替レートが前期に比べ円高に推移したこと及び研究開発費の増加により、前期と比べ減少。

計測機器事業：半導体テストビジネスでは、主力製品であるメモリ前工程向けテストの設備投資が低調に推移。一方、測定器ビジネスでは、電力測定器や光測定器の需要が好調に推移し、計測機器事業全体の売上高は増加。また、固定費及び研究開発費の削減に努め、営業損失が減少。

2. 投資有価証券評価損、拡大セカンドライフ支援制度、希望退職の募集に伴う費用を事業構造改善費用として特別損失に計上したが、当期純損失は前期と比べ改善。

(億円)

	FY09実績(A)	FY10計画(11/9)	FY10実績(B)	差異(B-A)
受 注 高	3,152	3,400	3,341	189
売 上 高	3,166	3,280	3,256	90
営 業 利 益	26	110	111	85
経 常 利 益	2	80	86	84
当 期 純 利 益	▲148	▲25	▲67	81

FY10 経営成績(対計画比)

YOKOGAWA ◆

(億円)

		FY09 実績	FY10				
			当初計画 5/14	修正計画 11/9 (A)	業績修正 4/26	実績 (B)	差異 (B-A)
受注高		3,152	3,400	3,400	3,400	3,341	▲59
売上高		3,166	3,350	3,280	3,280	3,256	▲24
営業利益		26	80	110	110	111	1
経常利益		2	50	80	80	86	6
当期純利益		▲148	0	▲25	▲70	▲67	▲42
為替レート	1\$= 1€=	92.61円 130.68円	90円 130円	85円 110円	85円 110円	85.13円 112.45円	0.13円 2.45円

◆受注高は、東日本大震災の影響(▲15億円)、フォトニクスビジネス撤退の決定に伴う受注残のキャンセル等(▲12億円)により、計画(11/9)に対し未達

◆売上高は、震災の影響はほとんど受けなかったものの、年度後半における日本市場の景気先行きの不透明感から計画(11/9)に対し未達

◆営業利益・経常利益は、研究開発費の執行が計画を下回ったこと等により計画(11/9)を超過達成

◆当期純利益は、投資有価証券評価損、事業構造改善費用を計上したことから計画(11/9)に対し未達

FY10 経営成績(対前年比)

YOKOGAWA ◆

(億円)

	FY09	FY10	増減率	差 異
受 注 高	3,152	3,341	6.0 %	189
売 上 高	3,166	3,256	2.8 %	90
営 業 利 益	26	111	323.0 %	85
(営 業 利 益 率)	0.8%	3.4%	—	2.6%
経 常 利 益	2	86	—	84
(経 常 利 益 率)	0.1%	2.6%	—	2.5%
当 期 純 利 益	▲148	▲67	—	81
(当 期 純 利 益 率)	▲4.7%	▲2.1%	—	2.6%

◆新興国、資源国の継続的な成長等により、円高によるマイナスの影響を受けながらも制御事業の海外市場を中心に受注高、売上高とも増加(為替影響額:受注高▲128億円 売上高▲122億円)

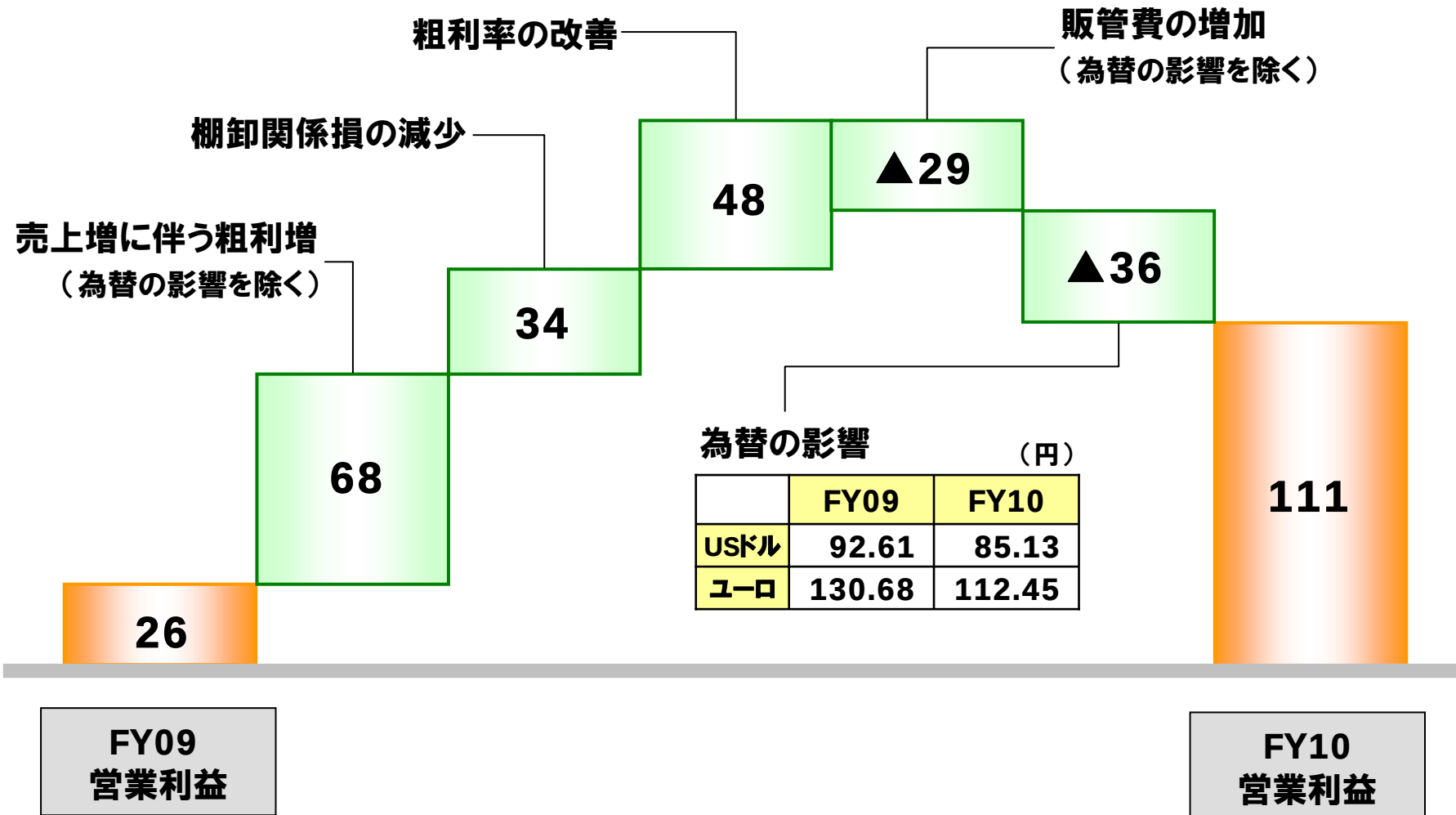
◆売上高の増加及び棚卸関係損の減少等による粗利率改善により、営業利益が増加

◆投資有価証券評価損、事業構造改善費用などの特別損失を計上したものの、営業利益の増加により当期純損失は改善

FY10 営業利益分析

YOKOGAWA ◆

(億円)



四半期別 経営成績

YOKOGAWA 

(億円)

	FY09					FY10				
	1Q	2Q	3Q	4Q	Total	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
受 注 高	798	749	726	878	3,152	880	817	784	860	3,341
売 上 高	645	862	685	974	3,166	662	871	752	971	3,256
営 業 利 益	▲56	32	▲4	53	26	▲6	45	8	64	111

◆売上高は制御事業の国内売上を中心に、2Q、4Qに集中

営業外・特別損益

(億円)

	FY09	FY10
営業利益	26	111
営業外収益	31	37
営業外費用	55	62
経常利益	2	86
特別利益	10	15
特別損失	119	111
税引前利益	▲107	▲10
法人税等	41	57
当期純利益	▲148	▲67

支払利息:28億円
為替差損:18億円

投資有価証券評価損:
23億円
事業構造改善費用:
68億円

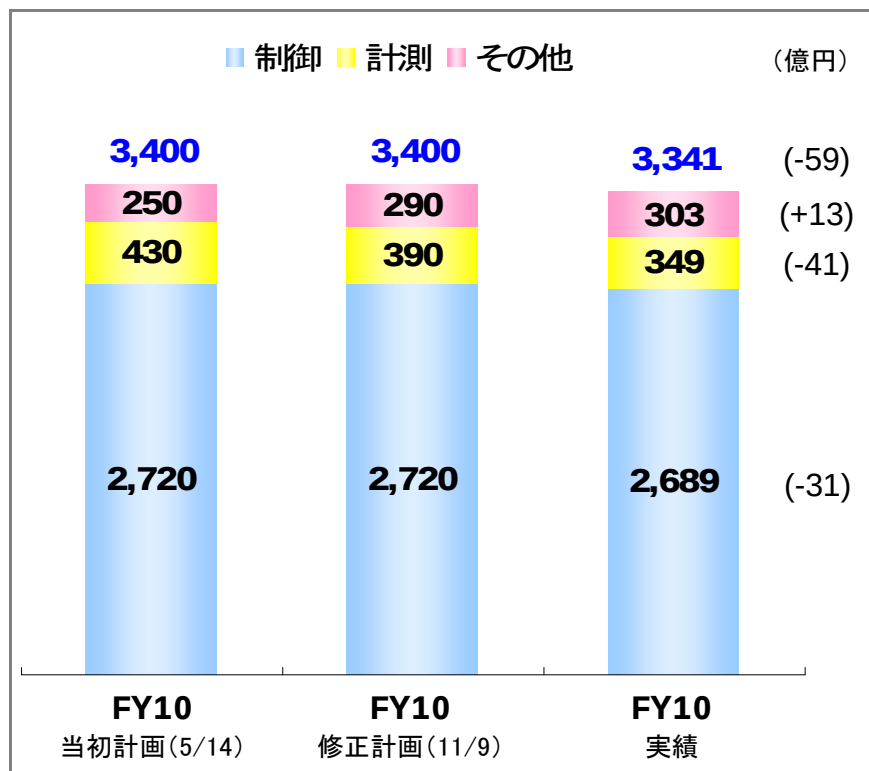
◆主に為替差損が増加(FY09 4億円 → FY10 18億円)したことから、営業外費用が増加

◆減損損失が減少(FY09 62億円 → FY10 7億円)したものの、事業構造改善費用が増加(FY09 11億円 → FY10 68億円)したこと等から、111億円の特別損失を計上

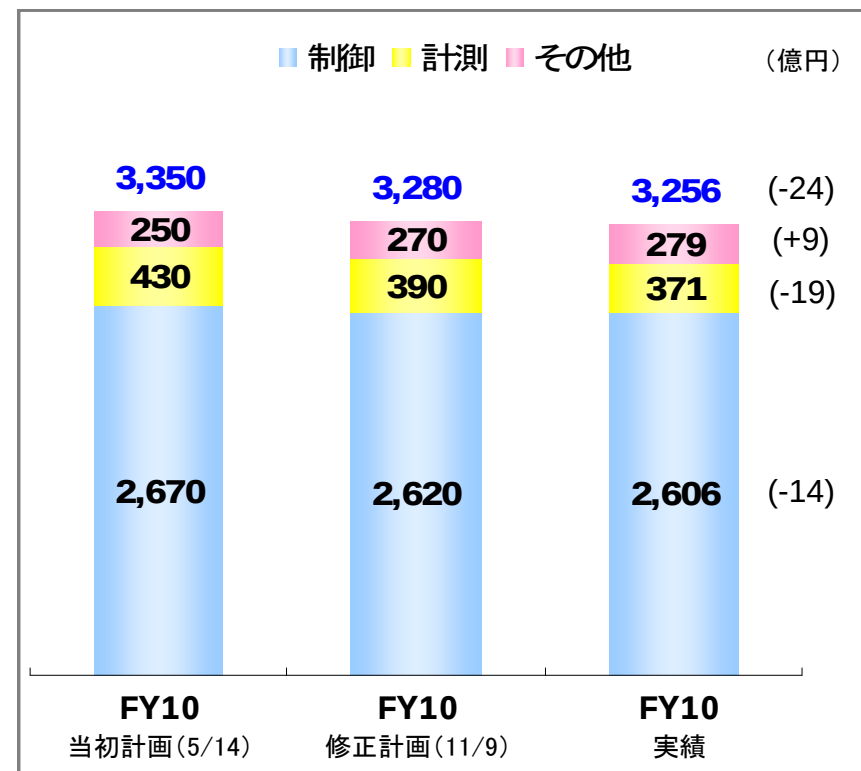
セグメント別 受注・売上(対計画比)

YOKOGAWA ◆

受注高



売上高



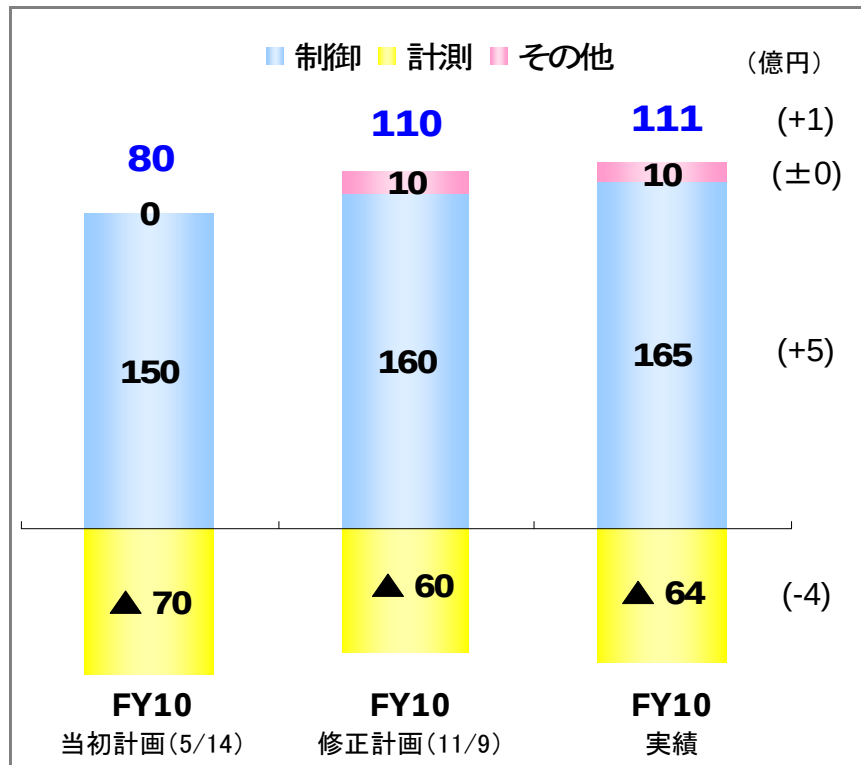
◆**制御事業**：東日本大震災の影響により一部の受注が来期に繰り延べとなったこと、また年度後半に日本市場の景気先行きの不透明感が強まり企業の設備投資が抑制されたことから、受注高、売上高とも計画(11/9)未達

◆**計測機器事業**：フォトニクスビジネス撤退の決定に伴い受注残をキャンセルしたこと(▲12億円)、年度後半における日本市場の先行き不透明感から、受注高、売上高とも計画(11/9)未達

セグメント別 営業利益(対計画比)

YOKOGAWA ◆

営業利益



(億円)

	FY10 計画 (11/9)	FY10 実績	差異
制御	160	165	5
計測	▲60	▲64	▲4
その他	10	10	0
合計	110	111	1

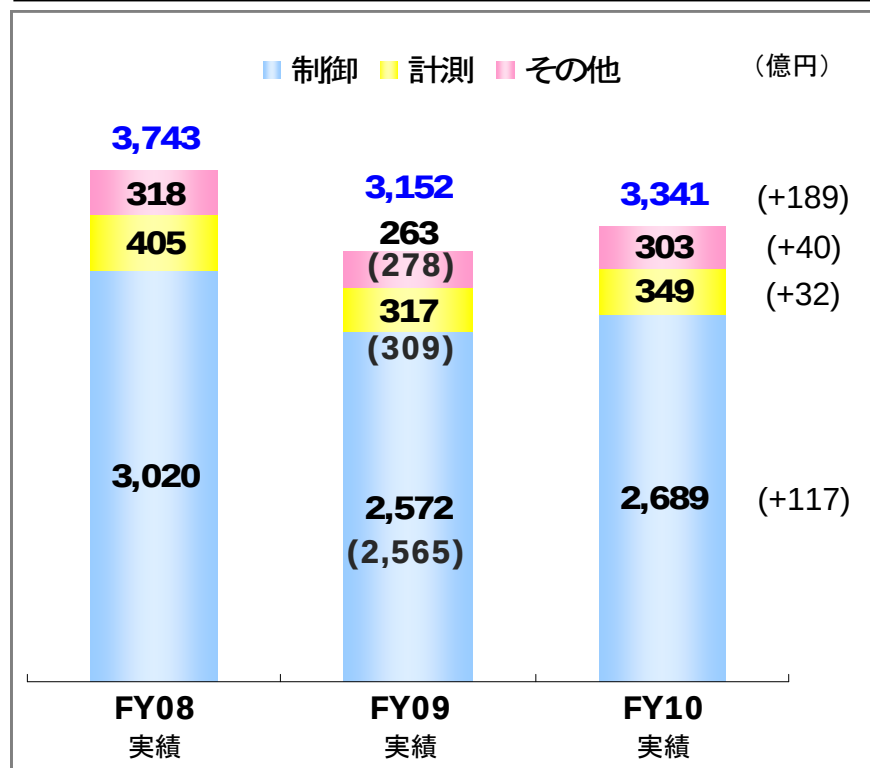
◆制御事業：粗利率の改善及び研究開発費の執行が計画を下回ったことから、営業利益が計画を超過達成

◆計測機器事業：主に売上高の計画未達により、営業損失が計画に比べ拡大

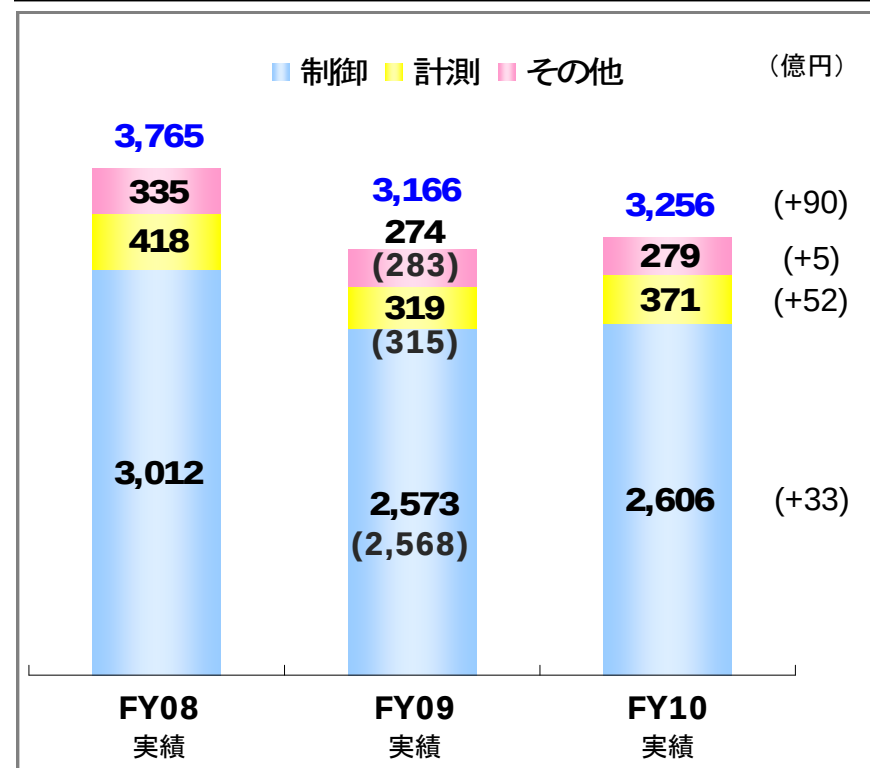
セグメント別 受注・売上(対前年比)

YOKOGAWA ◆

受注高



売上高



※新会計基準の適用により、FY10からセグメント情報の集計方法が変わりました。FY08及びFY09()内の数値は集計方法変更前の数値です。

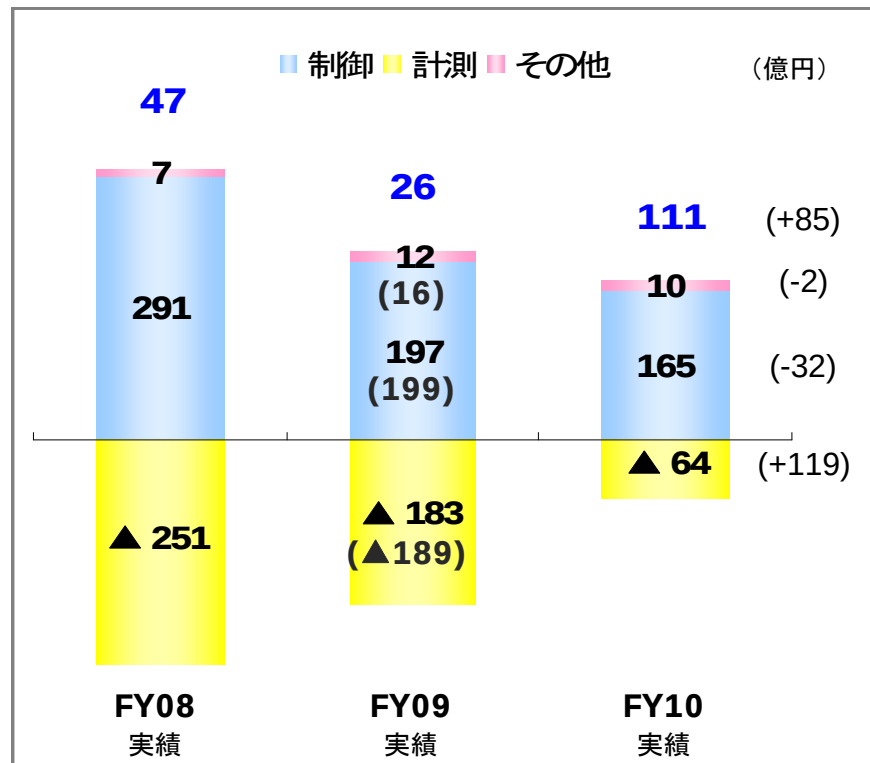
- ◆制御事業：円高による減収の影響を受けたものの、新興国、資源国を中心に電力・エネルギープラント等の建設プロジェクトなどで需要拡大の動きが継続したことから、受注高・売上高が増加(為替影響額：受注高▲118億円 売上高▲112億円)
- ◆計測機器事業：主に測定器ビジネスが好調に推移(前期比：受注高43億円増 売上高40億円増)したことから、計測機器事業の受注高、売上高が前期に比べ増加

セグメント別 営業利益(対前年比)

YOKOGAWA ◆

営業利益

(億円)



	FY09 実績	FY10 実績	差異
制御	197	165	▲32
計測	▲183	▲64	119
その他	12	10	▲2
合計	26	111	85

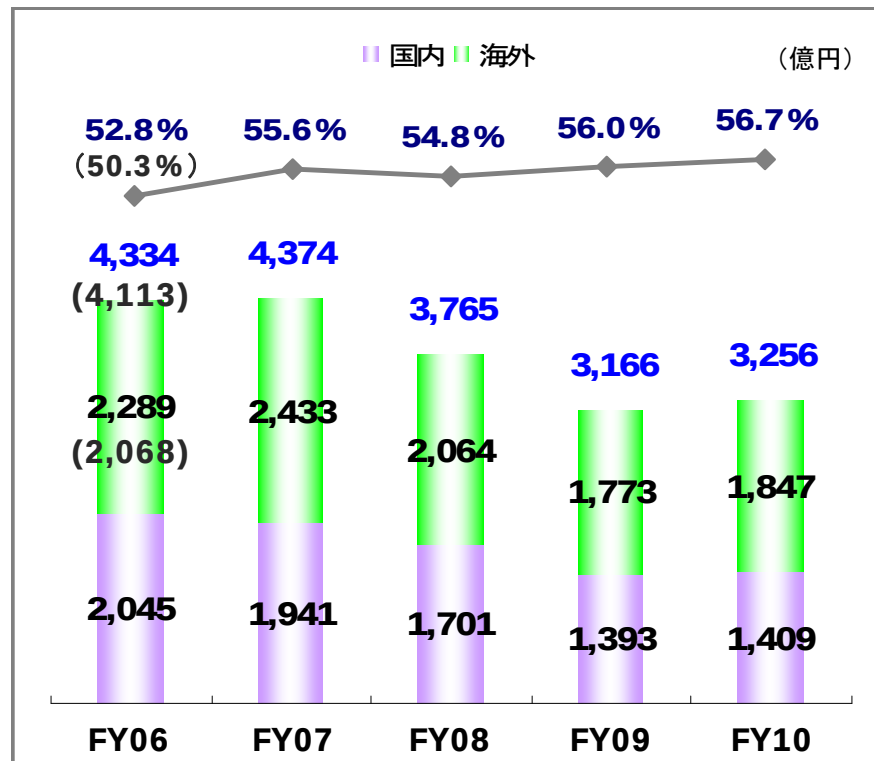
※新会計基準の適用により、FY10からセグメント情報の集計方法が変更されました。FY08及びFY09()内の数値は集計方法変更前の数値です。

- ◆**制御事業**: 研究開発費が増加したことに加え、為替が円高に推移したことから、前期に比べ営業利益が減少
- ◆**計測機器事業**: 売上高の増加に加え、固定費及び研究開発費の圧縮、棚卸関係損の減少により、前期と比べ営業損失が大幅に減少

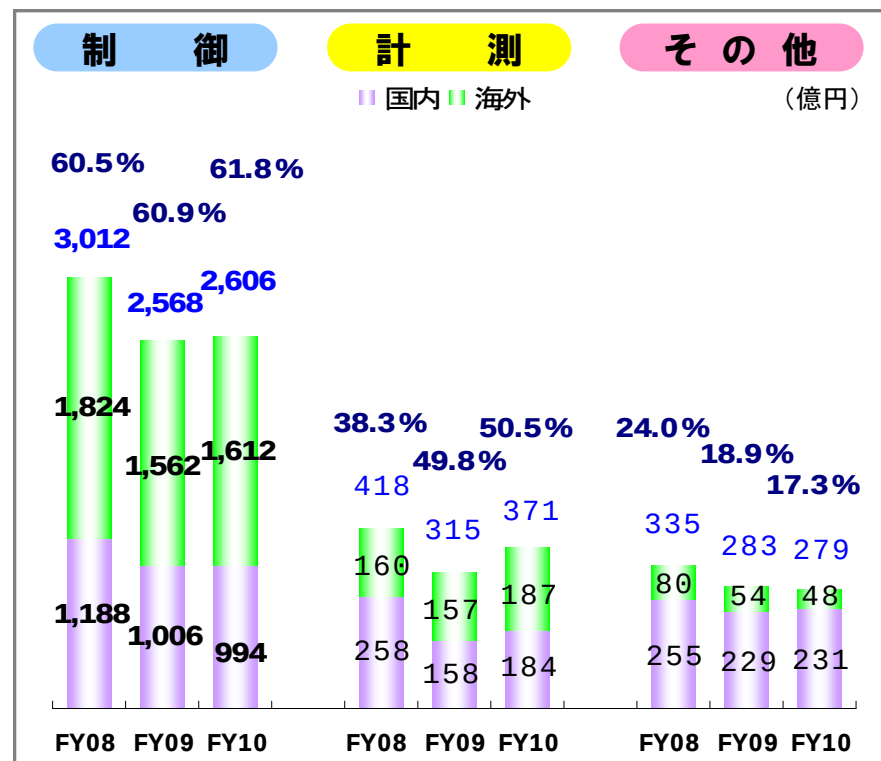
海外売上高

YOKOGAWA ◆

全社



セグメント別

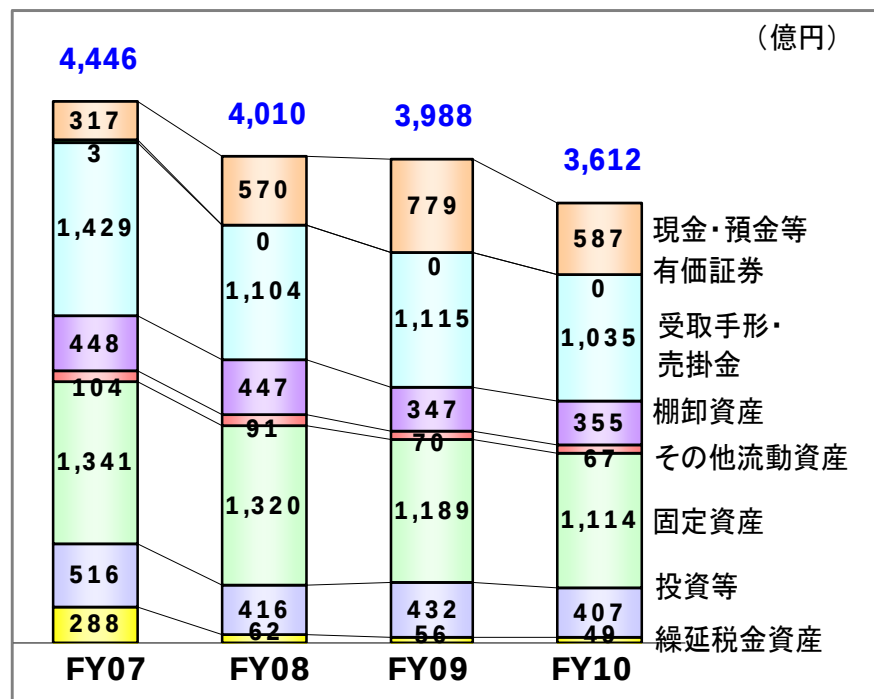


※()内は、海外連結子会社の決算期変更による増加分を除いた数値です。※FY08、FY09の実績はセグメント集計方法変更前の数値です。

◆主に制御事業で海外売上高が増加したことから、海外売上高比率が上昇

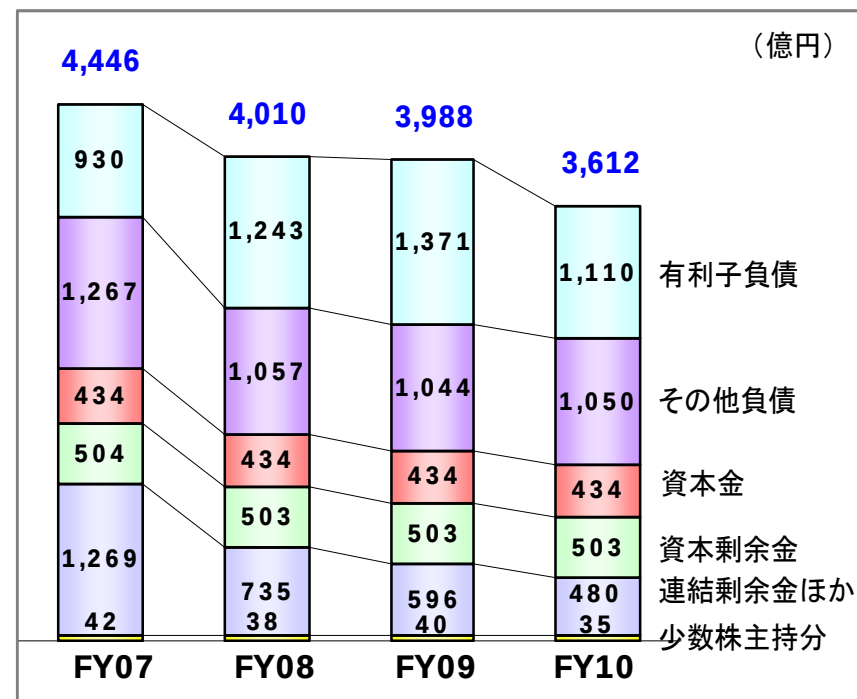
貸借対照表

資産



	FY07	FY08	FY09	FY10
総資産回転率	0.99	0.89	0.79	0.86
自己資本比率	49.6%	41.7%	38.5%	39.2%

負債・資本



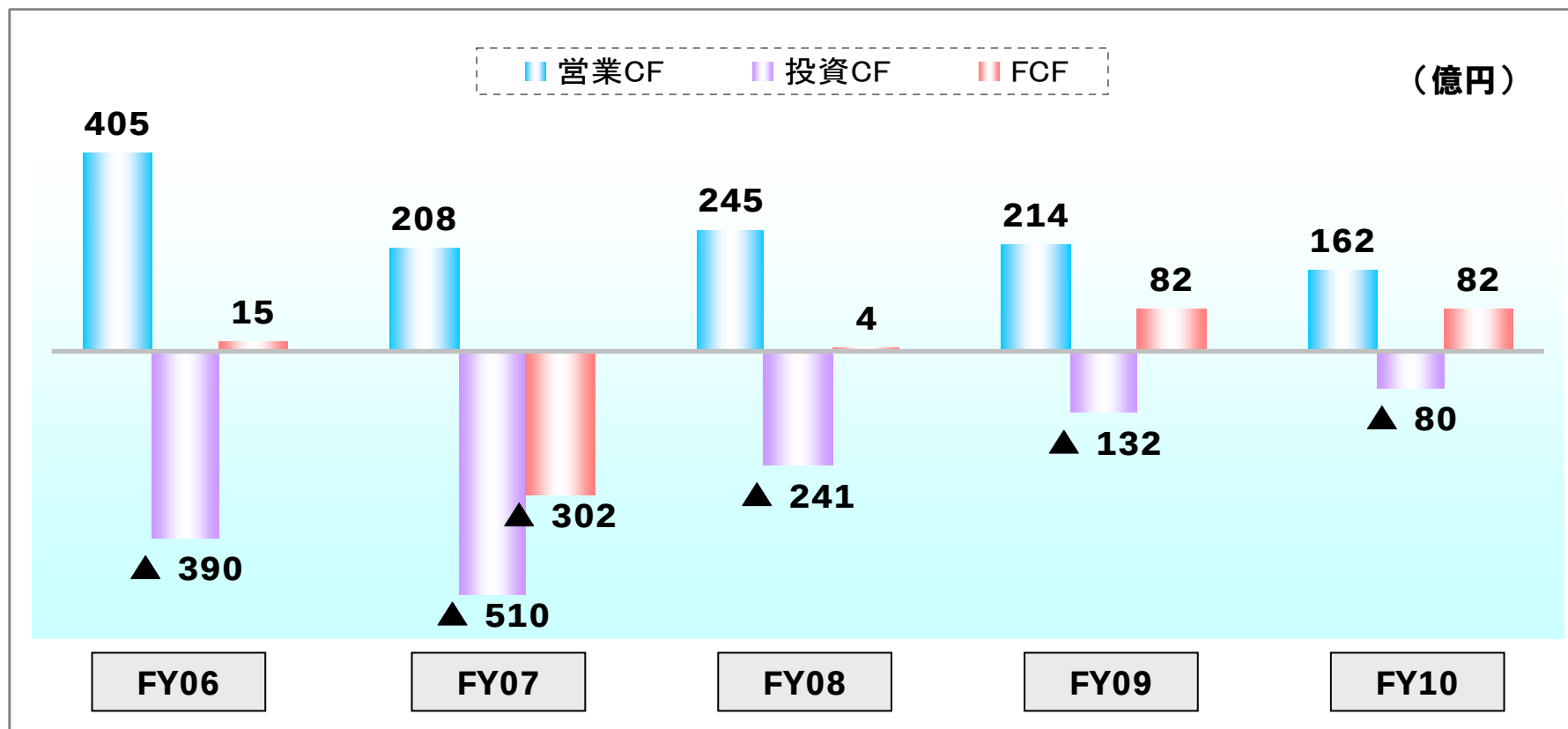
	FY07	FY08	FY09	FY10
D/Eレシオ	42.1%	74.3%	89.4%	78.3%
有利子負債比率	20.9%	31.0%	34.4%	30.7%

◆主にシンジケートローンの返済に充当したため、現金・預金が192億円減少

◆主にシンジケートローン200億円の返済により、有利子負債が261億円減少

キャッシュ・フロー

YOKOGAWA 

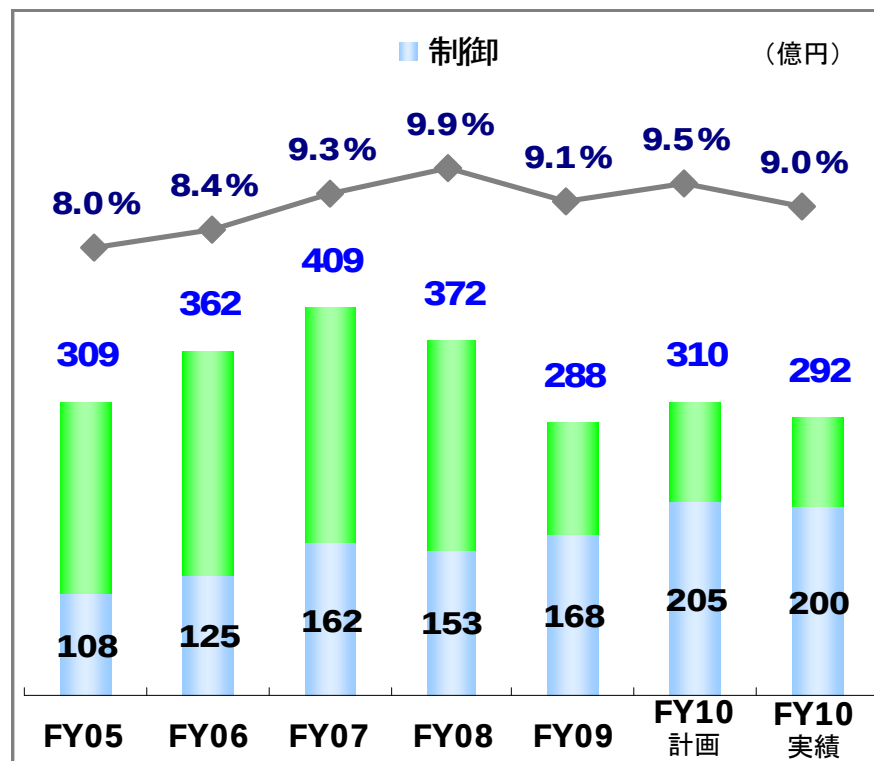


- ◆支払利息の増加及び拡大セカンドライフ支援制度募集に伴う特別退職金の支払いにより、営業キャッシュ・フローの収入が減少
- ◆固定資産の取得による支出が減少したことから、投資キャッシュ・フローの支出が減少

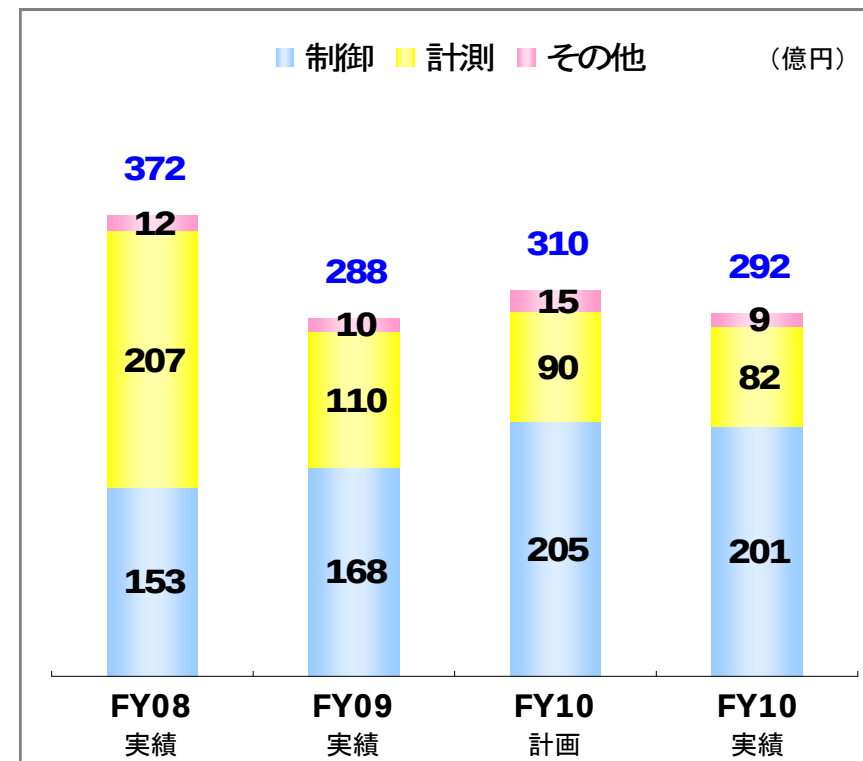
研究開発費

YOKOGAWA ◆

全社

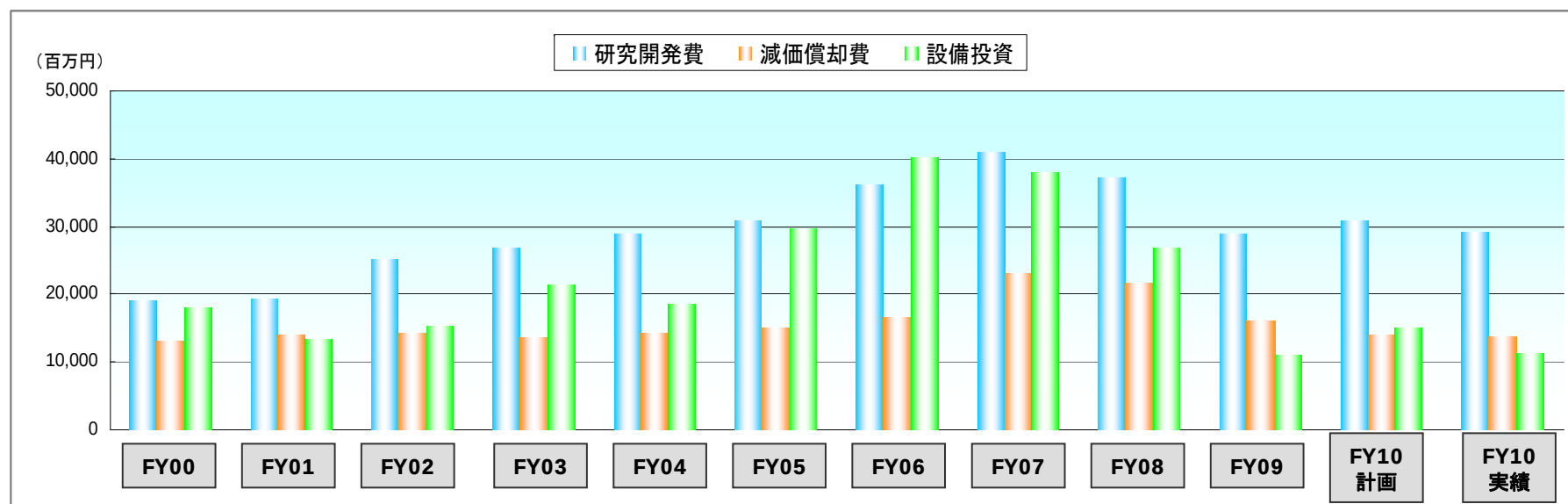


セグメント別



◆制御事業へのリソース集中により、同事業の研究開発費が前期に比べ33億円増加

研究開発費・減価償却費・設備投資



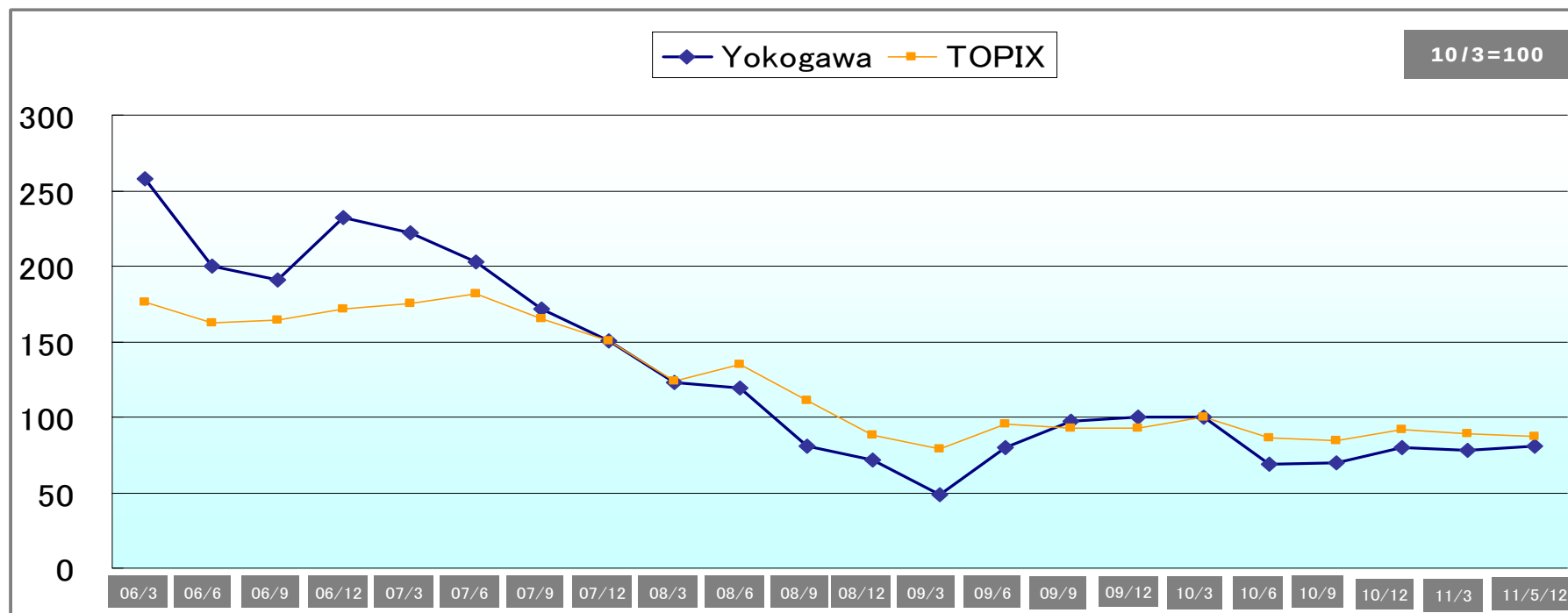
(百万円)

	FY00	FY01	FY02	FY03	FY04	FY05	FY06	FY07	FY08	FY09	FY10 計画 (11/9)	FY10 実績
研究開発費 (対売上比)	19,181 5.4%	19,236 6.2%	25,233 7.7%	26,991 7.3%	28,998 7.5%	30,917 8.0%	36,223 8.4%	40,875 9.3%	37,229 9.9%	28,786 9.1%	31,000 9.5%	29,179 9.0%
減価償却費 (対売上比)	13,190 3.7%	13,964 4.5%	14,298 4.3%	13,455 3.6%	14,331 3.7%	15,124 3.9%	16,483 3.8%	23,129 5.3%	21,615 5.7%	16,033 5.1%	14,000 4.3%	13,836 4.2%
設備投資 (対売上比)	18,173 5.2%	13,347 4.3%	15,264 4.6%	21,355 5.7%	18,652 4.8%	29,540 7.6%	40,284 9.3%	37,990 8.7%	26,813 7.1%	11,125 3.5%	15,000 4.6%	11,337 3.5%

◆FY10設備投資は計画(11/9)に比べ37億円圧縮

**FY11の経営計画については、
東日本大震災の影響により現時点で合理的に
算定することが困難であるため未定としています。
今後、合理的な算定が可能となった時点で
速やかに公表いたします。**

株価の状況



	06/3	06/6	06/9	06/12	07/3	07/6	07/9	07/12	08/3	08/6	08/9	08/12	09/3	09/6	09/9	09/12	10/3	10/6	10/9	10/12	11/3	11/5/12
Yokogawa	2,095	1,631	1,552	1,887	1,806	1,654	1,398	1,228	998	971	659	582	394	650	795	812	814	557	568	646	634	657
TOPIX	1,728	1,587	1,611	1,681	1,714	1,775	1,617	1,476	1,213	1,320	1,087	859	774	930	910	908	979	841	830	899	869	849

	06/3	06/6	06/9	06/12	07/3	07/6	07/9	07/12	08/3	08/6	08/9	08/12	09/3	09/6	09/9	09/12	10/3	10/6	10/9	10/12	11/3	11/5/12
Yokogawa	257	200	191	232	222	203	172	151	123	119	81	71	48	80	98	100	100	68	70	79	78	81
TOPIX	177	162	165	172	175	181	165	151	124	135	111	88	79	95	93	93	100	86	85	92	89	87

本資料およびアナリスト説明会で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいております。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

